

スケッチについて

本実験では顕微鏡観察等の結果を記録するために、スケッチを行う。スケッチを行うためには、詳細な観察が必要となるため、単に写真を撮影することでは見出せない事柄に初めて気づくことも多く、その気づきとその記録が発見につながる。

観察物を記録するためのスケッチは、美術的なものや写真とは異なるため、標本の原型に忠実に、基本的には点と線で描写し、陰影などは必要に応じて加えること。絵の上手下手ではなく、丁寧な描写を心掛けると良い。彩色する必要はない。描線は、先を尖らせた H もしくは 2H の鉛筆を用いるときれいに描ける。また、スケッチは観察しながら描くことが大切で、観察しながら描いたものをレポートとする。改めて清書したスケッチは、観察結果のレポートとしては望ましくない。以下の点に注意しながら、次ページに示す例を参考にするとよい。

1. 大きく、丁寧に描く

特に指定がない限り、観察物を用紙いっぱい大きく描く。丁寧に描くことを心がけ、輪郭線がきれいにつながるように気をつける。

2. 線と点で描く

輪郭線はフリーハンドの 1 本線で描く。鉛筆またはシャープペンシルを用い、色鉛筆やボールペンなどは用いない。濃淡を表す場合は、塗りつぶしたり斜線を用いたりせず、点描を用いる。陰影はつけない。

3. 名称や気づいたことなどを書き込む

各部分の名称は引き出し線を使用して、なるべく多く書き込むこと。スケッチで表現しにくい部分や、気づいたことは、言葉による説明を書き込む。

4. 実物に忠実に描く

観察物の部分ごとの大きさやその比率、形は正確に描く。見えていないものを想像で描かないこと。同様の構造が繰り返される場合は、一部を詳しく描き、他も同様であることがわかるようにして省略してもよい。

5. スケールバーによって大きさを示す

実長測定に基づき、スケッチにスケールバーを描き加える。スケールバーの長さは 100 μm 、500 μm など切りの良い値にすること(125 μm などにはしない)。

